

ヌエック News

National
Women's
Education
Center News



2012/1/25

第129号

国立女性教育会館

ISSN 1343-4926



Contents

新理事就任あいさつ.....	2	女性アーカイブ.....	11
平成23年度事業予告・募集	3	情報ネットワーク.....	11
・交流学習会議		お知らせ.....	12
・NWEC男女共同参画プログラム(第3回)		・利用案内	
平成24年度事業計画	4	・東日本大震災における国立女性教育会館の対応について	
平成23年度事業実施報告	5	・寄附金受け入れの報告・お願い	



理事就任にあたって

独立行政法人 国立女性教育会館
理事 山根 徹夫

このたび、平成23年11月15日付けで、理事に就任しました山根徹夫です。

私は昭和54年に当時の文部省に入省して以来、大学等の高等教育、私立学校、初等中等教育、さらには文化、スポーツなど様々な分野の行政の仕事を担当してきました。また、千葉大学、国立教育政策研究所、独立行政法人メディア教育開発センター、そして前職の明治大学と、それぞれ設置形態の異なる組織の運営にも携わってきました。しかしながら、男女共同参画に関わる仕事を直接担当したことはなく、このたび初めて携わることになりました。国立女性教育会館に来たのも入省3年目の昭和56年に、当時所属していた課が会館を借りて実施する研修のお手伝いに訪れて以来、実に約30年ぶりに会館の門をくぐりました。そういうわけで、関係の皆様には何かとご迷惑をおかけするかもしれませんが、一生懸命勤めていく所存ですので、ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

さて、既に皆様ご承知のとおり、国の行財政改革の動きの中で国立女性教育会館は大変厳しい状況に置かれています。会館はこれまでも、

女性教育に関する我が国唯一のナショナルセンターとして、女性教育指導者等に対する研修、女性教育に関する専門的な調査研究、情報収集・提供などを行い、女性教育の振興、さらには男女共同参画社会の実現に向けて大きな役割を果たしてきました。本年度からは第3期中期目標・中期計画期間に入り、より一層深化した事業の実施に取り組んでいます。今後とも、必要な見直しを行いながら、会館の機能の更なる充実を図ってまいりたいと考えておりますので、関係の皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

プロフィール

1979年東北大学法学部卒業、同年文部省入省。文部科学省高等教育局私学部私学行政課長、同私学助成課長、国立大学法人千葉大学理事、明治大学理事長付大学経営特任補佐兼副学長等歴任。

交流学習会議

平成24年3月9日(金)～11日(日)

会館の研修・交流事業参加経験者が、地域で実践したことを報告し合い学習する機会を設けます。各地の先進事例や地域における課題等を共有し、女性関連施設等の関連機関や団体・グ

ループ等の連携・協働の促進に向けての意見交換も行います。活動を全国的なネットワークにつなげませんか。

会 場 国立女性教育会館

対 象 者 会館の研修・交流事業参加経験者のうち地域でネットワークを構築している女性団体・グループのリーダー、男女共同参画・行政担当者、女性関連施設関係者等 150名

問い合わせ先 事業課 TEL：0493-62-6724



▲昨年度の交流学習会議分科会

NWEC男女共同参画プログラム(第3回)

「ダンスでアクティブ・エイジング—明日から実践できる方法」

平成24年3月16日(金)～17日(土)

平成23年度第3回目のプログラムは、日本女子体育大学との連携により、「ダンスを通じたアクティブ・エイジング」をテーマに行います。アクティブ・エイジングとは、「生活能力(自立)や自分で決める能力(自律)を維持し続け、アクティブに社会とつながりながら年を重ねていく」という高齢期についての考え方で、近年注目を集めています。

日常の動作にダンスの動きを取り入れることにより、美しくしなやかな動きが身につき、か

らだが活性化されます。また、からだが開放されることで、気持ちもアクティブになり、周囲の人間関係や物事への関心が高まっていくというダンスの効果に着目しました。

ダンスの効果についての講義、呼吸法の実習、ダンスの動きを取り入れた運動実習のほか、韓国茶の効用について学んだり、ダンス音楽を楽しむ時間もあります。どうぞお気軽にご参加ください。

会 場 国立女性教育会館

参加費 7,000円

募集定員 テーマに関心のある男女50名(全日程参加者を優先)

共 催 日本女子体育大学

問い合わせ先 事業課 TEL：0493-62-6725

平成24年度 独立行政法人 国立女性教育会館 事業計画 (予定)

参加者を募集する事業名	対象・募集人員	時期等
(1) 家庭教育・次世代育成指導者研修	家庭教育・次世代育成支援・子育て支援関係行政職員、子育てネットワーク・子育てサポーター等のリーダー、・企業の次世代育成支援担当者、女性関連施設職員、社会教育施設職員等 120名	平成24年 5月18日(金)～19日(土) 1泊2日
(2) 女性関連施設・地方公共団体・団体リーダーのための男女共同参画推進研修	女性関連施設の管理職、男女共同参画行政責任者、女性団体リーダー等 120名	平成24年 6月13日(水)～15日(金) 2泊3日
(3) 男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)	女性団体等のリーダー、研究者、男女共同参画、女性教育・家庭教育等の行政担当者、女性関連施設職員、NPO、学生等 1,000名	平成24年 8月24日(金)～26日(日) 2泊3日
(4) 女性関連施設相談員研修	女性関連施設や民間が主催する相談所において女性の悩みに関する相談業務に携わる者 120名	平成24年 10月17日(水)～19日(金) 2泊3日
(5) NWEC国際シンポジウム	男女共同参画・女性教育・家庭教育等の行政担当者、・女性関連施設職員、女性団体等のリーダー・研究者、国際交流・開発援助に関わる者、企業関係者等 100名程度	平成24年 10月27日(土)
(6) 男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウィーク)	期間中、国立女性教育会館を利用する団体及び個人 200名	平成24年 11月6日(火)～9日(金) 4日間
(7) 大学職員のための男女共同参画推進研修	大学における意思決定組織に所属する教職員等 80名	平成24年 11月29日(木)～30日(金) 1泊2日
(8) 男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修	女性関連施設・社会教育施設等の職員、団体・グループ・NPO法人等のメンバー、大学等のキャリア教育担当教職員等 60名	平成25年 1月10日(木)～12日(土) 2泊3日
	地方公共団体等との共同研修 30名	(未定) 1泊2日
(9) 女性情報アーキビスト養成研修(入門)+(実技コース)	女性史関係者、女性関連施設職員、図書館職員、女性史や女性アーカイブの研究者、実務担当者 30名	(未定) 1泊2日又は2泊3日
(10) 交流学习会議	会館の研修・交流事業参加者のうち地域でネットワークを構築している女性団体・グループのリーダー、男女共同参画・女性行政担当者、女性関連施設関係者等 150名	平成25年 2月8日(金)～10日(日) 2泊3日

調査研究事業名

(11) 女性関連施設に関する調査研究
(12) 地域課題の解決と女性の経済的自立に関する調査研究及びプログラム開発
(13) 男性の家庭・地域への参画を促進するための調査研究及びプログラム開発
(14) 男女共同参画統計に関する調査研究
(15) 外国人女性の困難等への支援に関する調査研究

男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)

平成23年10月21日(金)～23日(日)

男女共同参画社会の形成をめざし、研究や実践活動を行っている個人・団体等の相互交流とネットワークづくりを推進するために、平成23年度「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム」を実施しました。

初日と2日目には、「第3次男女共同参画基本計画」に示された施策を参考に設定したテーマに基づき、57件のワークショップを実施しました(全国からの応募50件、会館提供6件、文部科学省提供1件)。また、当会館主催の「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」研修生による「災害とジェンダー」のポスターセッションも行いました。

最終日のシンポジウム「災害・震災復興と地域づくりー男女共同参画社会への展望」では、

萩原なつ子氏(立教大学教授)のコーディネートのもと、シンポジストの吉村美栄子氏(山形県知事)、中村順子氏(NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長)、鈴木素雄氏(河北新報社論説委員長)より、行政、NPO、ジャーナリズムのそれぞれの立場から、鋭く、切実な問題提起がなされました。フロアの参加者からも活発に質問や意見が寄せられ、充実したシンポジウムとなりました。



アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー 及びNWEC国際シンポジウム

平成23年10月20日(木)～29日(土)

「災害とジェンダー～地域の復興に果たす女性の役割」をテーマとして、9カ国11名の研修生が参加し「アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」を開催しました。

研修生は、内閣府男女共同参画局や文部科学省を訪問し、日本政府の男女平等施策についての理解を深めるとともに、会館が主催する「男女共同参画のための研究と実践の交流推進フォーラム(NWECフォーラム)」の交流会にも参加し、日本国内で男女共同参画を推進する方々との交流を深めました。

10月29日(土)には「災害復興とジェンダー」をテーマとした、「NWEC国際シンポジウム」を開催。二部形式で実施され、第一部では前千葉県知事 堂本暁子氏及びAPWW(アジア・太平洋女性監視機構)代表セパリ・コテゴダ氏より基調講演を頂き、第一部と第二部との間には、各

国のジェンダー平等政策についてのポスターセッションが行われました。

第二部では、ジェンダー・アクション・プラットフォーム 大崎麻子氏をファシリテーターに迎えパネルディスカッションを行い、タイの慈善活動と市民社会センター代表 ジュリー・ヴィチトーヴァダカン氏、包括的災害管理プログラム モニタリング・評価専門家 シャンタナ R. ハルダー氏、参画プランニング・いわて理事長 平賀圭子氏による防災・減災の事例及び報告がされました。

最後に、研修生代表による研修成果が発表され「国際シンポジウム」は閉会しました。



女性アーカイブセンター企画展示開催

平成23年8月29日(月)～11月6日(日)

本館1階女性アーカイブセンター展示室において「化学と歩む～チャレンジした女性たちからチャレンジする女性たちへ～」を開催しました。

2011年はマリー・キュリーがノーベル化学賞を受賞してから100年目として、国連の定める「世界化学年」であったことから、マリー・キュリーとその娘イレーヌのほか、ノーベル化学賞の女性受賞者、日本における近代から現代までの化学研究の歩みと、化学分野で教育や企業での研究開発の中で活躍する女性たちを紹介しました。

本展示は、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみをたどるシリーズ企画の4回目です。今回は、過去に活躍した女性のみならず、現在活躍中の女性たちをも大きく取り上げました。展示室内には、女性教育情報センターで所蔵する関連図書を紹介し、女性教育

情報センターではそれらの図書を手に取って読めるコーナーを特設しました。

化学分野で活躍

する女性たちをより身近な存在として、幅広い年代の方に興味を持っていただけたのではないのでしょうか。

なお、期間中には本館2階の女性教育情報センター前ホールにおいて、名古屋大学と連携して、マリー・キュリーポスター展(フランス、マリー・キュリー博物館作成)も開催しました。これらの連動企画によって、展示として更なる広がりとお行きを持たせることができました。

たくさんのご来場、誠にありがとうございました。



NWEC男女共同参画プログラム(第1回)

「健康寿命をのばしてハッピーエイジング—栄養編」

平成23年9月16日(金)～17日(土)

今年度第1回目のNWEC男女共同参画共同参画プログラムは、女子栄養大学との連携により、「健康寿命と栄養」をテーマに、参加者54名で行いました。

香川靖雄女子栄養大学副学長による「健康寿命をのばすための栄養」についての講義では、長寿にともなって増える認知症の予防に葉酸や地中海型の食生活が有用なこと、どのような栄養

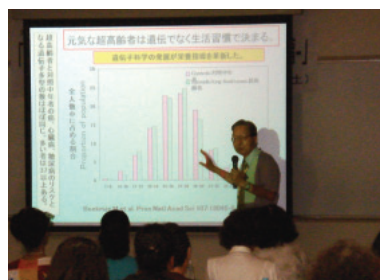
を摂取することだけでなく、いつそれを摂取するのが大事だという「時間

栄養学」の考え方を学びました。

蒲池桂子栄養クリニック教授による講義とワークショップでは、脳を活性化させるための食生活について学んだほか、3月に大震災があったことを踏まえ、非常時の栄養補給の知恵や工夫について学び、今後の食糧備蓄に役立つお話でした。

鷲見義則女子栄養大学農園管理責任者からは、なぜ野菜が健康によいのかについて、野菜の栄養成分から学び、香川副学長のお話を植物の側から理解することにつながりました。

このような生活にすぐ役立つ講義のほかに、女子栄養大学が経営する松柏軒の特製弁当を味わったり、琴の現代音楽や和のアロマを楽しむ講座もあり、参加者同士ゆったりと交流を楽しみながらの1泊2日となりました。



▲女子栄養大学副学長 香川靖雄氏による講義

男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウィーク)

平成23年11月8日(火)～11日(金)

平成23年度男女共同参画交流特別週間(らんざん交流ウィーク)は11月8日(火)～11日(金)の4日間にわたって開催されました。本年度は初めてNWECのプログラムに参加する方にもより親しみやすい内容となるよう、文化・時事などの観点から企画が行われました。

文化プログラムでは『まずは笑って！男女共同参画』(講師：古今亭菊千代師匠 噺家)、「能



▲文化プログラム「能楽のスズメin嵐山～能の世界の女性達～人待つ女 能『井筒』」(講師：小島英明先生 観世流能楽師)

楽のスズメin嵐山～能の世界の女性達～人待つ女 能『井筒』(講師：小島英明先生 観世流能楽師)を実施し、日本の古典芸能の世界や歴史をはじめ、修業時代や活動を通しての出会いなど様々なお話しを伺うことができました。

時事プログラムでは「野菜～安全においしく食べる～」(講師：吉田

企世子先生 女子栄養大学名誉教授)、「被災地における支援活動」(講師：田端八重子先生 もりおか女性センターセンター長)を実施しました。両先生の講義とも、参加された皆さんは熱心にメモを取っていました。

男女共同参画を学ぶための講座「統計から見る男女共同参画」(講師：高橋客員研究員)、特別講義「男女共同参画のあゆみ」(講師：神田客員研究員)には地方自治体の研修、婦人学級のご参加がありました。

このほか、会館内の自然を生かした「万葉の植物観察・万葉の植物と落葉広葉樹を使った作品づくり」はNWECボランティア、「津軽三味線ミニコンサート」はヌエック・ノットの会(NWEC男女共同参画プログラム修了生による自主グループ)と多くの方々にご協力いただきました。10日(木)夜の交流会にはJICAの研修で来館していたタイからの研修生の皆さんと熊本県、北九州市、地元嵐山町から参加の方々と賑やかな交流の場となるなど、本年度も多くの方にご協力いただき、盛会のうちに終了しました。

女性関連施設相談員研修

平成23年10月12日(水)～14日(金)

女性関連施設の相談員を対象に、男女共同参画・女性教育・家庭教育の喫緊の課題である配偶者からの暴力、児童虐待、関連機関との連携等の課題解決に必要な知識の習得・相談技能の向上を内容とする研修を実施しました。

この研修は、初心者から参加でき、女性相談の基礎・基本のプログラムとともに、同時期に内閣府と共催で行った「相談員ワークショップ」も受講し、男女共同参画社会形成に向けて解決すべき課題である配偶者からの暴力について、理解を深めることができました。

また、相談員自身のメンタルヘルスの重要性にも注目し、配偶者からの暴力相談に当たっての留意点や相談技法を学びつつ、相談員のメン

タルヘルスに関する知識を学習しました。参加者は、宿泊研修の利点を活かし、情報交換や交流を促進することができました。研修後のアンケートには、「相談員として、活用できることを多く学びました」「国立女性教育会館ならではの有意義な研修で、内容も濃かったです」「関係機関との連携の大切さを痛感しました」「情報交換会では、日頃の悩みを分かち合い、視野も広がりました」などの感想が寄せられました。



▲講義 「配偶者からの暴力の実態と支援に役立つ法知識」
講師 番 敦子 氏

配偶者からの暴力被害者支援のための官官・官民連携促進ワークショップ (相談員ワークショップ)

平成23年10月4日(火)～5日(水)、12日(水)～13日(木)、11月1日(火)～2日(水)

「男女共同参画基本計画(第三次)」では、第9分野 女性に対するあらゆる暴力の根絶として、相談しやすい体制等の整備があげられています。

このワークショップは、内閣府から委託を受け、配偶者暴力相談支援センターや男女共同参画センター等で相談を行う中堅の職員を対象に、配偶者からの暴力に関するさまざまな事象への的確な対応や配慮事項についての専門的・実践的な研修を全国3ブロックに分けて実施しました。

10月4日(火)～5日(水)には福岡県男女共同参画センターあすばる、10月12日(水)～13日(木)には国立女性教育会館、11月1日(火)～2日(水)には大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)で開催しました。

受講者は、配偶者からの暴力被害の現状や、多様な事例に基づいた相談の受け方など、相談現場の一線で活躍する講師陣から、豊富な事例

を取り入れた実践的な内容の講義や事例検討を通して学び、ワークショップでは活発に意見交換を行いました。感想として、「参加者の様々な意見が聞け、今後の参考になりました」「相談員としての自分の客観的評価ができました」「スーパービジョンでの講師の助言が、相談者の背景を理解する上でとても参考になりました」等の意見が寄せられました。



▲講義 「配偶者からの暴力の相談の受け方ー相談員のメンタルヘルスー」
講師 石井 朝子 氏

男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修

平成23年11月16日(水)～18日(金)

2泊3日で「男女共同参画の視点に立った多様なキャリア形成支援研修」を開催しました。女性関連施設・社会教育施設職員、団体・NPOのメンバー、大学等キャリア教育担当教職員等、全国から75名が参加しました。

この研修では、会館の調査研究や実践で明らかになりつつある「複合キャリア」の概念や、長期的視野に立ったキャリア形成支援に必要な方策や今後の方向性について、講義、関係省



庁による報告と討議、事例報告などにより専門的・実践的に学びました。コース別ワークショップでは、日頃の課題を持ち寄り、討議やグループワークを通して、参加者それぞれが地域・組織に持ち帰って実践できる事業(学習)計画案を作成しました。全体会での各コース代表の発表では、参加者は熱心に耳を傾けていました。

終了後のアンケートからは「自分が今取り組んでいる事業に直接活かせると感じる事ができた。」「宿泊研修の良さが、参加者や講師の方と意見交換ができ、考えが整理できた。」「事業計画案づくりは苦勞したが、良い経験となった。」等の意見が寄せられました。

大学との連携事業

埼玉大学・青森中央学院大学

平成23年4月～7月

埼玉大学及び青森中央学院大学との連携授業を実施しました。

埼玉大学との連携授業は、テーマ教育プログラム〈社会と出会う〉「男女共同参画社会を考える」とし、全部で14回シリーズで実施しました。学生は、男女共同参画に関する国内外動向や情報収集の方法、女性と男性に関する統計データの活用について学びました。第11～12回(6/25)は、会館の女性教育情報センターで授業を実施し、来館した学生たちは、所蔵資料を実際に手にとったりしながら情報収集を行いました。

また、6月には青森中央学院大学との連携授業として、公開講座「自分らしく生きる—仕事も家庭も地域生活も—」を実施しました。この講座は3回シリーズで、第1回はワーク・ライフ・バランスについて学び、第2回及び第3回はワークショップでは「ワーク・ライフ・バランスが実現された社会に近づくためにはどうしたらいいか?」について学生と市民の混合のグループで課題解決を考え、個人、学校、企業、社会のレベルにおける具体的な方策が提案されました。

これらの授業の理解を深めるために、会館は埼玉大学及び青森中央学院大学にそれぞれ、テーマに関する専門的な図書をまとめて貸し出す「NWEC図書パッケージ貸出サービス」を提供しています。



▲NWEC女性教育情報センターでの実習(埼玉大学連携授業)



▲中野研究国際室長のワークショップへのコメント(青森中央学院大学連携授業)



▲発表を行う学生(短期大学との連携授業)

埼玉県私立短期大学協会との連携事業

平成23年9月1日(木)～3日(土)

埼玉県私立短期大学協会との共催で2泊3日の「女子学生のためのキャリア形成講座」を実施しました。

「男女共同参画社会における女性としての生涯を通じたキャリア形成の考え方」について学び、他大学の学生との交流や討議等を通じて、人と人との関わり合いの基礎や多様性を認め合う意識の涵養を目的として実施し、秋草学園短期大学、埼玉純真短期大学、埼玉女子短期大学、山村学園短期大学から25名の女子学生が参加しました。参加した学生は、講義を中心に、キャリアを積み重ねていくことの意義について学びました。特に短期大学の先輩が、様々なチャレンジを繰り返しながらキャリアを重ねている話に感銘を受けたようです。

参加学生による最終日の発表では、「周りの力を上手に借りれば家事・育児・介護などがあっても仕事を続けていけるのだと思った」「生き生きと活躍している先輩を見て、出産後も働きたいと思った」「社会との関わりが大切だと思った」などの意見が出ました。

この講座は各大学の該当科目(「キャリアデザイン」等)において2単位と認定されます。

大学職員のための男女共同参画推進研修

平成23年12月8日(木)～9日(金)

1泊2日で「大学職員のための男女共同参画推進研修」を開催しました。大学・研究機関・高等専門学校等より意思決定組織に所属する教職員88名が参加しました。

はじめに、大学における男女共同参画を推進するための講義、続いて、文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課より女性研究者の現状と女性研究者支援の主な施策についての説明を聞きました。その後、参加者一人一人が抱えている問題や意見を質問票に書き、コーディネーターが整理し、今日の政策課題、今知りたい国の動向やポイントについて理解を深めました。

その後の講義では、韓国・米国・ドイツの女性研究者支援策の講義、女性が活躍する企業のベストプラクティス事例等を取り上げ、日本の大学・組織における男女共同参画について深く考えました。

分科会では、『男女共同参画意識を学内に浸透させるために』『大学におけるワーク・ライフ・バランス』『女性研究力・アップ』3つに分かれ、実践報告、討議やグループワークを通して、参加者それぞれが大学・組織に持ち帰って生かせる実践的な意見交換ができました。「普段知ることのできない企業内部の取組をすべて有意義だった。」「他機関の事例を知ることができた。」「ネットワークを広げることができ今後に役立てたい。」等の意見が寄せられました。



▲女性の活躍推進・WLB推進と大学の役割

人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ

平成23年11月7日(月)～18日(金)

「国別研修タイ：人身取引被害者支援に関する日・タイ合同ワークショップ」を開催し、タイから関係者14名の研修員が来日しました。

タイでは、人身取引の被害者保護と自立支援のための関係機関の連携協働を促進するプロジェクトが日本の支援で進められており、国際協力機構(JICA)の委託を受け、平成21年度から継続して会館が実施しています。

本研修は、タイの人身取引被害者保護対策に携わる関係者が、両国の相互理解を深め、タイにおける他分野協働チーム(MDT)の連携機能・活動強化に資する方策を検討することを目的としています。

研修員は、人身取引対策行動計画に基づき、内閣官房、内閣府男女共同参画局、外務省、警察庁、法務省、厚生労働省、国際移住機関の取組みについての講義、東京都、千葉県、埼玉県、

岐阜県、愛知県の公的・民間女性保護施設等や県警、国際交流協会の見学や意見交換、在日タイ人を含むNGO関係者との意見交換を行いました。会館では、人身取引に関する取組みや、女性関連施設の役割、女性情報や相談員研修に関する講義を受け、研修員は日本の関係機関の役割や官民の役割、法制度の違いについて理解を深めました。今後はタイで報告会を開催し、日本での研修成果をタイのMDTやメコン地域に広げ、活かしていくことになります。



女性情報アーキビスト養成研修(入門)

平成23年12月1日(木)～2日(金)

本研修は、女性アーカイブ(女性に関わる原資料)の保存技術や整理方法について具体的かつ基礎的な知識を習得するための実務者向け研修として開催したものです。

今回のプログラムは、3月11日(金)に発生した東日本大震災を受けて『災害経験を通して災害に備える』をテーマとし、資料の保存・管理について、防災・減災の視点に重点を置きました。

講義は実際に被災地で活動している講師陣から、現地の状況や被災した資料の写真や動画が紹介された後、被災資料への実践的な対応、今後に向けての事前対策など講義がありました。参加者は現地での活動の様子を知るとともに、各講義とも非常に高い関心を持って受講しまし

た。また、「アーカイブと著作権」「女性アーカイブ概論」の講義では、実務に役立つ理論や内容をわかりやすく学ぶことができたと好評でした。

なお、1日目の講義終了後に行われた情報交換会では、アーカイブ資料の媒体変換による活用事例として、女性としごとの未来研究会による幻灯の上映後、講師の方々、参加者相互で積極的な交流がありました。参加者の皆様には、学んだことはもちろんですが、交流によって生まれた人と人とのつながりも今後の業務に活かしていただければ幸いです。



女性アーカイブ

女性アーカイブセンター所蔵展示

平成23年11月8日(火)～

11月8日(火)より、本館1階女性アーカイブセンター展示室では、平塚らいてうによる女性文芸誌『青鞥』の創刊(1911年)から100年になることを記念して、女性アーカイブセンター所蔵の「奥むめおコレクション」および「全国婦人新聞取材写真コレクション」から、平塚らいてうに関する資料を展示中です。

また、婦人発明家協会の設立者である九重年支子(1904-2002)氏が創設した手織りの一種・九重織の作品や資料も紹介しています。

なお、企画展示同様、本館2階の女性教育情報センターにおいて、平塚らいてうの関連図書を展示紹介していますので、こちらも是非あわせてご覧ください。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。



情報ネットワーク

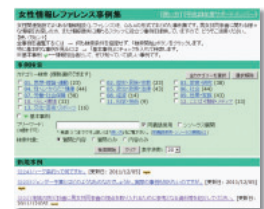
「女性情報レファレンス事例集」に新規8事例を掲載しました

女性関連施設でよくある情報相談(レファレンス)を、Q&Aの形式でまとめた事例集です。男女共同参画に関わる様々な情報をお探しの方、また情報提供に携わるスタッフに役立つ事例を、全国のサポートメンバーと連携して、提供しています。

このたび8事例を新たに追加しました。女性情報ポータル"Winet" <http://winet.nwec.jp/> トピックス、あるいは「男女共同参画知恵袋」から、ぜひご覧ください。

(追加事例の内容)

「ハーグ条約とは?」「ジェンダー予算とは?」「地域の防災計画に男女共同参画の視点を」「諸外国の夫婦別姓の状況」「日本の女医の歴史」「漁業に従事する女性」など



資料展示コーナー<1階エントランスホール>

「女性に対する暴力の根絶」(平成23年10月～12月)

女性に対する暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害です。性犯罪は社会的な偏見が強く、まだまだ訴えをためらう人も多い犯罪ですが、近年、被害当事者が声を上げ始めています。性犯罪被害者への支援について考える資料を展示しました。

「男性にとっての男女共同参画」(平成24年1月～3月)

第3次男女共同参画基本計画に新たな重点分野「男性、子どもにとっての男女共同参画」が設定されました。女性にも男性にも生きやすい社会の形成を目指し、働き方の見直しなど、男性が育児・介護、地域活動等に参画できる環境整備を推進することを施策の基本的方向としています。男性にとっての男女共同参画を考える資料を展示します。

※展示のリストはホームページに掲載しています。 <http://www.nwec.jp/jp/center/page05.html>

利用案内

料金改定について

平成24年3月ご利用分より、目的利用①の宿泊研修施設の利用料金を一律200円値上げし、2,200円～2,600円に改定します。なお、目的利用②・一般利用の宿泊研修施設及び研修施設の使用料金は変更ありません。お申込みの際は、必ず施設利用料金をご確認くださいませようお願いします。

また、目的利用の区分については、申込書・概要等により会館にて審査をさせていただきます。

詳細については、予約係までお問い合わせください。

国立女性教育会館 予約係

申込専用電話：0493-62-6723

ファックス：0493-62-4399

ホームページ：http://www.nwec.jp/

E-mail: yoyaku@nwec.jp (予約専用)

平成24年3月ご利用分からの料金改定

宿泊施設(1人当たり)	目的利用①使用料金
洋室：シングル(バス・トイレ付)	2,600円
洋室：ツイン(バス・トイレ付)	2,400円
洋室：ツイン(トイレ付)	2,200円
和室：2人用(バス・トイレ付)	2,400円
和室：4～5人用(トイレ付)	2,200円

休館日(平成24年2月～平成25年3月)

平成24年	2月	6日(月)、20日(月)～24日(金)
	3月	5日(月)
	4月	—
	5月	7日(月)、21日(月)
	6月	18日(月)
	7月	2日(月)
	8月	—
	9月	24日(月)
	10月	1日(月)、15日(月)
	11月	5日(月)、19日(月)
	12月	3日(月)、17日(月)
	年末年始	12月27日(木)～平成25年1月4日(金)
平成25年	1月	7日(月)、20日(日)～25日(金)
	2月	4日(月)、17日(日)～22日(金)
	3月	4日(月)

*臨時に休館させて頂くことがありますので、会館ホームページ等でご確認ください。

節電のお願い

平成23年3月に発生しました東日本大震災の影響により、会館内の照明・空調等を一部制限しております。利用者の皆様にはご不便をおかけいたしますが、引き続きご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

東日本大震災における国立女性教育会館の対応について

東日本大震災の被災者を支援するため、被災者の無料受入(8月末まで実施)や義援物資対応を行いました。

会館は、地震による施設・設備及び人的被害がなかったため、地震発生直後から震災の被災者・避難者の受入れを開始し、主催事業参加者、近隣の帰宅が困難な中学・高校生や教員96名の臨時宿泊を受け入れました。被災者の宿泊は、12月22日までの約9か月間で115名、延べ宿泊者数は2,418名にのぼりました。

また、被災者を対象に、ボランティアや職員による

昼食の無料提供や日用品購入の手伝い、近隣の観光案内、子どもへの絵本の読み聞かせ、折紙体験等各種支援を実施したほか、埼玉県内の避難所に対するマットレス50枚の提供、近隣施設及び嵐山町住民と連携した義援物資の受入被災者への配布等を通じ、被災者への継続的な支援に取り組みました。



▲食事をする被災者の方々

寄附金等受け入れの報告

団体や個人の方々から寄附金をいただきました。(敬称略・順不同)

個人 鈴木優子

寄附金のお願い

又エックではより充実した業務遂行の経費に充てるため、寄附金を含む外部資金を受け入れております。今後とも事業の充実、運営の改善及びサービスの向上に努めてまいります。皆様方の温かいご篤志を賜りますよう、よろしくお願い致します。

○寄附金に対する問合せは総務課へ

一定の金額までの寄附金については、法人及び個人の場合ともに税法の規定により所得から控除されます。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。本年も職員一同よろしくお願ひいたします。

ホームページのリニューアルに取り組んでおります。又エックニュースだけでなく、ホームページもぜひご覧いただき、ご意見をお寄せください。

又エックニュース第129号

平成24年1月25日発行

編集・発行 独立行政法人 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

(事業課) TEL. 0493-62-6725 (研究国際室) TEL. 0493-62-6479
FAX. 0493-62-6720 FAX. 0493-62-9034
(情報課) TEL. 0493-62-6727 (総務課) TEL. 0493-62-6714
FAX. 0493-62-6721 FAX. 0493-62-6722

ホームページ: http://www.nwec.jp/
E-mail: webmaster@nwec.jp